

S.M

今年の一泊修養会のテーマが「賛美」に決まったので、戦争中の賛美について知りたくなり「戦時下の教会が生んだ讃美歌」（石丸新著 いのちのことば社 2014）を読みました。

戦時中、あらゆる文化（音楽、文学、絵画、映画 等々）が国民を扇動し戦争に駆り立てるために利用されたことは周知の事実です。それでは当時キリスト教会で歌われた讃美歌はどうだったのか。今年の平和祈念礼拝の際にも引用した 1967 年 日本基督教団の声明に「…わたくしどもは、教団の名において、あの戦争を是認し、支持し、その勝利のために祈り努めることを、内外にむかって声明いたしました。まことにわたくしどもの祖国が罪を犯したとき、わたくしどもの教会もまたその罪におちいりました。」とあるのですが、実際の所はどうだったのか。三郷教会には当時の礼拝の様子を知る方はもういらっしやらないと思いますので直接聞くことができません。

大正 10 年生まれの私の母は軍国教育を受ける少し前の世代であったせいか「戦争中は軍が威張っていたので怖くて仕方なく従っていた。『天皇陛下万歳』は口先だけ。戦争が終わって本当にうれしかった」と生前よく言っていましたし、永井荷風など一部の文学者は戦意高揚の動きには一切関わらず「…心の自由空想の自由のみはいかに暴悪なる政府の権力とてこれを束縛すること能はず。人の命のあるかぎり自由は滅びざるなり。」（断腸亭日乗 昭和 16 年元旦）と記しています。

それで私は、当時の教会も、「忠君愛国」「挙国一致」といったスローガンが、イエスの教

えと相容れないことを重々承知したうえで、軍部や特高の締め付けを恐れ、面従腹背的に行動していたのだらうと思っていました。

しかしこの本を読んで驚いたのは、教会は私が思うよりはるかに積極的に戦争に協力加担していたということです。1940年日本基督教信徒大会においては天皇陛下の萬歳を寿いだ上で「進ンテ大政ヲ翼賛し奉リ尽忠報国ノ誠ヲ致サントス」と誓ったそうです。

「決戦下の教会は全体としては、自らの身を進んで総力戦体制の中に置いていた。身を投じたと言ったほうが正確かもしれない。身を投じることによって信仰報国を実践し、アジアを興し、大東亜を建設すると言う大いなる使命を達成しようとしたのである。」(p.164~165)

昭和16年から19年、戦局が困難を極めていた頃に「興亜讚美歌」「興亜少年讚美歌」「日曜学校讚美歌」という特別な讚美歌が、国から特別配給された紙で発行されました。歌詞のほんの一部を紹介すると

「我ら主イエスのこどもらは おほみこころをかしこみて
忠の大道すすみゆき 日いづるくにの光たらん」

「日いづる国＝日本と『みくに』＝神の国がわけもなく溶け合わされている」(p.152)

「大君の みことかしこみ 御民みな 御国建てんと いそしみてあり」ここでは大君＝天皇で、御民・御国＝普通であればキリストの説く神の国のはずが、大東亜共栄圏にすり替わっているのは現代の私たちには噴飯もので「なんじゃこりゃ！」と呆れるばかりです。これらを礼拝で熱心に歌う姿を想像するに、子供たちを含む会衆は、しぶしぶでなく、骨の髄まで天皇崇拝にのめり込んでいたのではないのでしょうか。洗脳とはかくも恐ろしいものかと戦

慄します。

世界各地で現在進行形の戦禍を思うとき、特にイスラエルの暴虐ぶりは一部の誤った宗教観・歴史観も背後にあることが否めません。現代の私たち日本人キリスト者は、二度と先人の過ち（国策に呑み込まれてイエスの教えを冒瀆し踏みにじる）をしないようにどうしたら良いのか考えなくてははいけません。とここで自分の考えをまとめたいところですが、実はあまり準備する時間がなくて自分の言葉で表現するに至っていないので、以下に著者の強い訴えの言葉を引用させていただき閉じたいと思います。

「決戦下の日々を振り返り、あるいは戦時下の史・資料を前にして、あの時はこうだった、こんな讃美歌まであった、と怒りをぶちまけたり、慨嘆したりするだけでは、事は一步も進まない。私たちは評論家ではなく、当事者なのだから。…「こんな」ことにしてしまった原因を一同で突きつめることが、前に進んでいく力となって働く。一人一人が罪の歴史の事実を識別して冷静な判断に至り、しかも静かに声を挙げることをしなければ、教会は前に進めない。あおり立てるだけではいけない。静かな勉強会が常に望まれる。声高では、せつかくの意見も人の心に届かない。意識の高い仲間だけに通用する議論に終始したのでは、このように大切な問題への取り組みの輪は広がらない。…私たちは、正気に返り、正気を保つために、狂気の時代を詳しく知り、狂気の沙汰の一部始終を分析して、狂気に至った原因、否、狂気を赦した原因の根源にあるものを、痛みを覚えながらえぐり出さねばならない。」

(p.167～168)